

第4 資 料 編

1 職員配置表

(平成18年5月1日現在)

		事務吏員	技術吏員						計
			一般技術員						
			化学	薬学	生物	獣医	農芸化学	水産	
所長			1						1
次長			1						1
主幹			1						1
課長							1		1
企画調整室	主査						1		1
	事務吏員	2							2
ダイオキシン分析室	主査		1						1
	主任		2				1		3
環境分析室1	主査		1						1
	主任				1				1
	技術吏員		2						2
環境分析室2	主査			1					1
	主任		1						1
	技術吏員		2						2
ウイルス検査室	主査					1			1
	主任				1				1
	技術吏員					1			1
細菌検査室	主査				1				1
	主任				1				1
	技術吏員				1				1
食品化学分析室	主査				1				1
	主任				1	1			2
農薬分析室	主査						1		1
	主任		1						1
	技術吏員		2						2
課付		1							1
北九州市立大学アカア研究センター派遣職員	主任		1			1			2
	技術吏員		2				1	1	4
合計		3	18	4	5	3	5	1	39

2 職員名簿

(平成18年5月1日現在)

補職名	職名	氏名	補職名	職名	氏名	
所 長	技術吏員	井上 正治	北九州市立大学 アクア研究センタ ーへ派遣			
次 長	"	齊藤 寛				
環境研究課長	技術吏員	高橋 正規		主 任	技術吏員	江口 芳夫
主 幹	技術吏員	原口 公子		"	"	村田 達海
<企画調整室>				"	"	濱田 建一郎
主 査	技術吏員	東田 倫子			"	陣矢 大助
	事務吏員	津野 和巳			"	岩村 幸美
	"	横山 貴子			"	伊藤 聖恵
<ダイオキシン分析室>						
主 査	技術吏員	花田 喜文				
主 任	"	山田 傑				
"	"	井上 芳雄				
"	"	梶原 葉子				
<環境分析室1>						
主 査	技術吏員	桃原 信一				
主 任	"	佐藤 尚之				
	"	末富 良次				
	"	飯田 義和				
<環境分析室2>						
主 査	技術吏員	肥塚 隆男				
主 任	"	布川 徹				
	"	福本 真紀				
	"	三苦 洋介				
<ウイルス検査室>						
主 査	技術吏員	山本 康之				
主 任	"	吉川ひろみ				
	"	村瀬浩太郎				
<細菌検査室>						
主 査	技術吏員	下原 悦子				
主 任	"	清水 寧				
	"	徳崎 里美				
<食品化学分析室>						
主 査	技術吏員	森下 正人				
主 任	"	梨田 実				
"	"	眞鍋 静子				
<農薬分析室>						
主 査	技術吏員	衛藤 修一				
主 任	"	小嶋 勉				
	"	山口 理香				
	"	苗床 江理				
課 付	事務吏員	秦野 均				

3 予算概要

歳 入

(単位：千円)

科 目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
受託事業収入	19,076	14,722	14,122
国庫補助金	2,291	2,376	740

歳 出

(単位：千円)

科 目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
環境科学研究所費	215,941	159,542	158,485
報償費	491	107	84
旅費	8,185	7,322	5,235
需用費	57,349	52,444	51,877
食糧諸費	183	53	21
修繕費	2,577	2,426	5,897
自動車重量税	9	9	18
その他需用費	54,580	49,956	45,941
役務費	3,117	3,639	2,899
保険料	23	23	46
その他役務費	3,094	3,616	2,853
委託料	67,799	47,560	44,001
使用料及び賃借料	15,255	18,371	23,090
工事請負費	50,282	18,473	19,937
備品購入費	12,108	10,790	10,691
一般備品費	1,750	790	839
機械器具費	10,358	10,008	9,852
負担金補助及び交付金	1,355	836	671

4 分析機器整備状況

(1) 購入分

(単位：円)

平成14年度

品名	規格	数量	取得価格	取得年月日
多目的水質モニタリングシステム	YSI社 Model6600-M	1	3,139,500	H14.6.5
加圧式固相抽出装置	Waters Sep-Pakコンセンレータ-Plus	1	1,942,500	H14.8.5
DNA解析用分光システム	日本分光 V-550	1	1,942,500	H14.10.31
超低温槽	サンヨー超低温フリーザー MDF-U481AT	1	1,890,000	H14.11.18

平成15年度

品名	規格	数量	取得価格	取得年月日
ガスクロマトグラフ分析装置	Agilent 6890N	1	4,998,000	H15.10.31
安全キャビネット	アステック ASC-137	1	2,469,600	H16.1.9
SFX220抽出装置	西川計測(株)	1	2,938,950	H16.3.9

平成16年度

品名	規格	数量	取得価格	取得年月日
2475蛍光検出器	Waters社製	1	1,396,500	H16.6.15
有機体炭素計測定装置 (オートサンプラー付)	島津TOC-V CSH (ASI-V付)	1	3,444,000	H16.11.26
超臨界流体抽出用ポンプ	西川計測(株)製 260D型	1	2,938,950	H17.1.21
炭酸ガス培養器 (CO2インキュベーター)	三洋電機	1	1,142,400	H17.1.21

平成17年度

品名	規格	数量	取得価格	取得年月日
高速冷却遠心機	日立工機(株)製 CR20G型	1	2,100,000	H17.8.11
アスベスト測定用位相差分散顕微鏡	ニコン製 80iTP-DPH	1	1,197,000	H17.10.7
顕微鏡用高精度デジタルカメラ	ニコン製 DXN1200F	1	1,041,390	H17.10.21
GPCクリーンアップ装置	G-PREP GPC8,100 Singleシステム	1	3,297,000	H18.1.23

(2) リース分

(単位：円)

(平成13年度～17年度リース開始分でかつ、年間リース費50万円以上)

品名	規格	数量	取得価格	取得年月日
四重極簡易型ガスクロマトグラフ質量分析装置 (オートサンプラー付)	Automass Sun200 アジレント-6890	1	2,415,420	H13.9.1～ H19.3.31
ガスクロマトグラフ質量分析装置 (加熱脱着装置付)	島津製 QP2010nc	1	1,573,740	H14.4.1～ H22.3.31
高速液体クロマトグラフ用質量分析装置	Waters ZMD4000	1	1,745,100	H14.4.1～ H22.3.31
四重極簡易型ガスクロマトグラフ質量分析装置 (オートサンプラー付)	Agilent 5973 NetWork MSD	1	2,186,100	H15.4.1～ H23.3.31
高速液体クロマトグラフ (ダイオードアレイ及び蛍光検出器付)	Agilent 1100	1	1,004,220	H16.4.1～ H24.3.31
高速液体クロマトグラフ付誘導結合プラズマ質量分析装置(LC-ICP-MS)	Agilent 7500ce	1	3,641,400	H17.4.1～ H25.3.31

5 検査区分及び依頼別分析件数

	総数	微生物	衛生科学	大気	水質
調査研究	3,587 (3,587)	118	530	304 (304)	2,635
依頼検査	8,009 (12,243)	3,938	667	772 (5,006)	2,632
合計	11,596 (15,830)	4,056	1,197	1,076 (5,310)	5,267

注) 厚生労働省報告例記入要領では、降下ばいじん・硫黄酸化物及び酸性雨の検査件数は、測定日数をもって検査件数(検体数×測定日数)としているので、()内に計上している。

6 分析検査数

(-その1-)

年度	総数	性病 梅毒	ウイルス・リケッチア等検査				病原微生物 の動物試験	原虫・寄生虫等検査			食中毒			
			分離同定		抗体検査	原虫		寄生虫	真菌その他	病原微生物検査				
			ウイルス	その他						細菌	ウイルス	核酸検査	その他	
13	15349 (211)		507		5				2		172	14		
14	18,992 (190)	479	577		487	4					118	14	3	
15	19,956 (117)	685	444		685	49					348		47	
16	22,726 (84)	822	530		827	28					236	153	11	13
17	15,830 (82)	853	335		856	28					183	109	23	

(-その2-)

年度	臨床検査				食品検査				細菌検査				水質検査	
	血清等検査			その他	細菌学的検査	理化学的検査	動物を用いる試験	その他	分離同定	核酸検査	抗体検査	化学療法剤 に対する耐 性検査	水道原水	
	HIV	HBs	その他										理化学的検査	生物学的検査
13	468	134	361		278	973		34	143				516	
14	561	124			254	550		9	1,697	15		9	413	40
15	710	88			139	769		33	23	28		79	390	40
16	961	56	23	33	331	1,069	5	114	43	25	2			
17	876	27		46	324	940	5	305	78	22	4	16		

(-その3-)

年度	水質検査				廃棄物関係検査		環境・公害関係調査					水質検査		
	飲用水		利用水		一般廃棄物	産業廃棄物	大気検査			有害化学物質・重金属等	その他	公共用水域	工場・事業場排水	
	細菌学的検査	理化学的検査	細菌学的検査	理化学的検査	理化学的検査	理化学的検査	SO2NO NO2OXCO	浮遊粒子状 物質	降下ばいじん					
13	11	515	120	51		65				4,539		1,211	2,010	651
14	51	400	132			828				4,980		2,087	2,002	631
15	40	430	130							4,386		2,667	1,994	676
16			45	10		14		8	4,620	536	44	9,449	630	
17			116					3	4,380	780	69	2,061	761	

(-その4-)

年度	環境・公害関係検査						家庭用品・医薬品等検査			その他
	水質検査	悪臭検査	土壌・底質検査	環境生物検査	一般室内環境	その他	家庭用品	医薬品	その他	
	その他									
13	1,648	50	166	391	18	21	136	19		102
14	978	50	152	64	260	640	136	10		237
15	1,041	32	130	858		229	180	2		2,614
16	52	92	541	687		680	130	5		1
17	516	78	80	18			73	5		1,860

なお、総数()はダイオキシンの件数で内数

7 派遣研修

(平成14年度)

区分	研修名	期間	派遣人員
環境研修センター	ダイオキシン類環境モニタリング研修	平成14年9月24日～10月18日	1
環境研修センター	機器分析研修	平成15年1月15日～1月30日	1

(平成15年度)

区分	研修名	期間	派遣人員
環境調査研修所	ダイオキシン類環境モニタリング研修	平成15年7月1日～7月23日	1
環境調査研修所	ダイオキシン類環境モニタリング研修排ガスコース	平成16年1月15日～2月5日	1
環境調査研修所	臭気分析研修	平成16年2月16日～2月20日	1

(平成16年度)

派遣研修の該当者なし

(平成17年度)

区分	研修名	期間	派遣人員
環境調査研修所	VOCs分析研修(水質)(第2回)	平成17年10月24日～11月2日	1

8 平成17年度調査研究テーマとその概要

北九州市環境科学研究所

No.	調査研究テーマ	調査研究の概要	共同研究機関	調査研究期間
①	自動車排ガスからの揮発性有機化合物の実態調査	沿道で検出される揮発性有機化合物（VOC）を自動車由来と考え、光化学オキシダントや窒素酸化物との関係性を調べ、それを用いて一般環境におけるVOCの自動車由来を推定し、自動車排ガスによる大気汚染の実態を把握するもの。		H16～H18年度
②	環境大気中におけるPCB等POPsの迅速分析法の開発	平成13～15年度にかけて実施した「排ガス及び環境大気中のダイオキシン類の迅速分析法の開発」を応用し、PCBなどのPOPsの迅速分析法の実証試験調査を行う。	(株)九州テクノリサーチ、国立環境研究所	H17～H18年度
③	LC/MSを用いた環境化学物質分析法開発調査	LC/MSを用いて農薬など環境微量化学物質の分析法を開発し、環境化学物質の実態調査調査を充実させると共に、本研究所のLC/MSに関する分析技術の育成を図る。	国立環境研究所、福岡県保健環境研究所、静岡県立大学大学院	H17～H19年度
4	環境化学物質の実態調査	本市の化学物質対策の一環として、環境に対する化学物質による被害を未然防止するため、環境中に残留している化学物質の実態把握を行う。		H17～H19年度
5	緊急時モニタリング手法の開発	地震や大規模火災等で環境中に排出された有害化学物質による二次災害の防止やすでに起こった環境汚染事故事件などの原因究明のため水質、大気、揮発性有機物質について資料の採取から結果報告まで短時間でできる手法を開発する。	アクア研究センター	H17～H20年度
6	魚介類（淡水魚）におけるダイオキシン類蓄積調査	我が国に生息するフナなどのダイオキシン類蓄積量を調査し韓国の蓄積量と比較検討する。	国立環境研究所、釜山大、アクア研究センター	H15～H17年度
⑦	食品中の農薬等有害化学物質に関する調査研究	食品衛生法改正によりポジティブリスト制が導入され、今後規制される700種以上の農薬について系統的な分析法を開発する。	国立医薬品食品衛生研究所ほか	H4～H17年度
8	食品添加物の摂取量に関する調査研究	日本人が1日にどのような食品添加物でどのくらい摂取しているかを明らかにするためマーケットバスケット方式による調査を行う。	国立医薬品食品衛生研究所ほか	H14～H19年度
9	食品衛生検査の信頼性確保のための体制整備	食品衛生検査の精度、安全性の向上のため、標準作業手順書を最新の知見に基づき検討を行う。		H10～
10	O157等感染症を遺伝子解析するためのデータベース化に関する研究	細菌の遺伝子を解析することにより感染源を特定し予防に役立てるデータベースを構築するために共同研究を行う。	国立感染症研、九州各県・市衛生研究所	H15～H18年度
⑪	食中毒と下痢症起因ウイルスの関連性の調査	PCR法を用いた検査法で下痢症を引き起こすウイルスと食中毒との関連性を調査する。	九州各県・市衛生研究所	H15～H18年度
⑫	赤潮防止策としてムラサキガイを用いた水質浄化技術の開発	ムラサキガイ養殖殻を湾内に設置し、ムラサキガイを用いた水質浄化技術（特許取得）の実証実験を行い、本技術の実用性について検討する。	建設局、港湾空港局、九大、北大、熊本県立大	H13～H18年度
⑬	第二次河海湾生態系調査（魚介類、海藻類、底生生物、干潟生物）	4ヵ年計画で魚介類、海藻類、底生生物、および干潟調査を実施し、現在の水生生物の分布を明らかにし、その結果を16年前の調査結果と比較し、生態系から見た環境回復を評価するとともに環境修復の次のステップの提案をする。	港湾空港局、九大、熊本県立大、水産大学校、北大	H17～H20年度
⑭	化学物質（1,000種以上）の一斉分析用データベースの開発	GC/MSで測定可能な物質を標準物質を使用せずに測定できるデータベースを開発し、データを登録する。	環境研課、島津製作所、西川計測	H17～H20年度
⑮	緊急時における化学物質モニタリング手法の開発	地震や大規模火災等で環境中に排出された有害化学物質による二次災害の防止やすでに起こった環境汚染事故事件などの原因究明のため水質、大気、揮発性有機物質について資料の採取から結果報告まで短時間でできる手法を開発する。	環境研課	H17～H20年度
⑯	下水汚泥の減量化及び資源化（バイオマスエネルギー収率向上のためのオゾン処理法による下水汚泥の改質）	汚泥消化によるバイオマスエネルギーの収率は、汚泥の組成や性情と大きくかわるため、オゾン処理による汚泥の改質を利用して汚泥消化におけるバイオマスエネルギー収率の向上を図る。	建設局、(株)安川電機、その他	H17～H19年度
⑰	下水汚泥の減量化及び資源化（生ゴミと下水汚泥の混合消化によるバイオマスエネルギー化）	中央卸売市場で発生する生ゴミ（野菜くず）を対象として、下水汚泥との混合消化の基礎的な検討を行い、より一層の消化促進と汚泥の減量化を目指す技術開発を行う。	建設局	H16～H17年度
⑱	光触媒製品のJIS化	酸化チタン光触媒を応用した製品の性能のうち、水質浄化部門についてクロスチェックを行う。	(独)産業総合技術研究所、その他クロスチェック機関	H17年度
19	新薬材、新技術を用いた水処理技術の開発（高濃度オゾン処理法を用いた廃棄物処分場浸出水の浄化）	高濃度CODを含む廃棄物最終処分場浸出水のオゾン処理及びマイクロバブル注入法などの促進酸化手法を用いての処理、有害化学物質等の挙動の検討を行う。	(株)西日本環境リサーチ、福岡大学資源循環・環境制御システム研究所	H17～H19年度
20	廃棄物等の水質浄化材への利用及び有害性調査	廃棄物および廃棄物の資源化に伴い生成した製品や原材料並びに市内で安価に得られる材料を用いた水質浄化材の開発と有害性試験を行う。	建設局等	H17～H19年度

○数字は 重点テーマ

9 庁舎位置図

